

□ 書評 □

渡辺俊之/本田哲三(編集)

『リハビリテーション患者の心理とケア』

長澤 弘

(北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科)

リハビリテーション医療はチームワークが重視され展開される。その中で、患者の心理過程はリハビリテーションの方向づけにおいて大きな要素として考慮する必要がある。

リハビリテーション医療と精神医学とのリエゾンカンファレンスを実践してきた著者らは、患者のリハビリテーションにおける医療場面の視点に立ち、心理過程を疾患別に具体的に整理し、それらのケアに関して詳細に解説している。さらに看護職、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、それぞれの職種の立場から、心理的問題に対するケアのあり方について具体的な疾患・症例を通じて考察している。

はじめにリハビリテーション医療における心理的側面の歴史について整理され、心理過程と精神症状の合併に焦点を当て、治療構造や治療契機を踏まえたチーム医療の展開の必要性を力説している。また、障害受容には「障害の認知」「回復の断念」「適応的な行動」「社会的な自覚」「価値観の変化」など多義にわたるので臨床では適切に使い分ける必要があること、さらに障害受容へのアプローチでは、障害への直面化と支持

的な対応に加えて、適宜モデリングも併用していくことが要請されると解説している。

疾患別の項では、脳卒中患者、脊髄損傷患者、切断者、頭部外傷患者、転換型ヒステリー患者、慢性疼痛患者、心筋梗塞患者、小児疾患、痴呆を伴うリハビリテーション患者、と多岐にわたる疾患別の心理的特異性とそのケアについて、具体的症例を通じ分かりやすくそれぞれの特徴やアプローチに関して解説している。

またリハビリテーション医療におけるQOLについて、その概念と測定法について述べ、自己記入式QOL質問表改訂版(QUICK-R)を紹介し、その視点が障害者のみならず支援する人々のQOLをも視野に入れたリハビリテーション医療が必要となることを述べている。

リハビリテーションチームの運営上、役割の明確化とその遂行、合理的なコミュニケーションが重要なポイントとなること、各専門職の立場からの心理的問題の解決策の提示も、臨床的に役立つ観点から数多く著述されている。

身体疾患患者をめぐるさまざまな精神医学的問題を、精神科医が助言したり治療に協力するという「リエゾン精神医学」の観点から、リハビリテーション医学との交流をみごとにまとめあげたというべき内容である。リハビリテーションチームにおける全ての専門職の方々に一読いただくように願う次第である。

● A 5 頁 260 図 20 表 26 2000

定価(本体 2,800 円+税) 〒 400 医学書院・刊